

教科・科目	数学・ステップアップ数学	単位数	4（前期2＋後期2）		
		ライン	1	開講期	前期と後期
備考					

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>(1) 四則計算、正負の数及び平方根について、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理したりする技能を身に付ける。</p> <p>(2) 割合と比、文字式の計算及び方程式を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的に考察する力、事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付ける。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付ける。</p>
使用教科書 副教材等	改訂版 新 高校の数学Ⅰ（数研出版） ラレボ 数学（東京書籍）

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	四則計算、正負の数及び平方根について基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	割合と比、文字式の計算及び方程式を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとしている。
評価点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	整数の四則計算 小数の四則計算 分数の四則計算	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	割合と比 正負の数 平方根 文字式の計算 方程式	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点

4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	前期2回以上、後期2回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	スクーリング回数に含めることができない。
レポート	前1回～前6回、後1回～後6回のすべてに合格すること。	
試験	前期1回、後期1回、それぞれに合格すること。	

「メディア利用（NHK 高校講座）」は学習を深めるために活用してください。NHK 高校講座の番組名は⑥、⑦ページにあります。
放送視聴ではありませんのでスクーリングの出席とは関係ありません。

5 学習の記録

5 学習の記録		添削担当者				先生				登録	
スクーリング回数	学習内容	レポート				スクーリング実施日				メディア利用(NHK 高校講座)	
		回	提出日・合格			日S	月S	火S	木S		
前期	①	加法と減法	前1	1 3	2 4	4/19	4/20	—	4/23		
	②	乗法と除法	前2	1 3	2 4	5/10	5/11	—	5/14		
	③	四則計算と小数	前3	1 3	2 4	5/24	5/25	—	5/28		
	④	小数の計算	前4	1 3	2 4	6/7	6/8	—	6/11		
	⑤	この回は、実施されません。									
	⑥	小数と分数	前5	1 3	2 4	7/5	7/6	—	7/9		
	⑦	分数の四則計算	前6	1 3	2 4	7/19	7/13	—	7/23	第1回	
	⑧	この回は、実施されません。									
試験	レポート前1～前6の内容		本試験	追再試	8/23	8/24	—	8/27			
後期	⑨	割合・比	後1	1 3	2 4	10/11	10/19	—	10/15	第2回	
	⑩	正負の数	後2	1 3	2 4	10/25	10/26	—	10/29		
	⑪	この回は、実施されません。									
	⑫	平方根	後3	1 3	2 4	11/22	11/16	—	11/26	第14回	
	⑬	式の計算	後4	1 3	2 4	12/6	12/7	—	12/10		
	⑭	式の展開・1次方程式	後5	1 3	2 4	12/20	12/21	—	12/24	第6/ 11回	
	⑮	連立方程式・2次方程式	後6	1 3	2 4	1/10	1/18	—	1/14	第8/ 16回	
	⑯	この回は、実施されません。									
試験	レポート後1～後6の内容		本試験	追再試	2/7	2/8	—	2/4			

6 先生からのメッセージ

「ステップアップ数学」では、小学校の足し算、引き算から、中学校の正負の数、2次方程式の解き方まで、9年間分の算数と数学の計算分野を復習します。スクーリングでは「ラレポ」を使用します。学習した内容を確実に定着させるために、「ラレポ」を利用して、日々の復習に丁寧に取り組みましょう。また、必要に応じたICTの活用によって主体的な学習をサポートしていきます。

教科・科目	数学・数学Ⅰ	単位数	4（前期2＋後期2）		
		ライン	1、2	開講期	前期と後期
備考	令和3年度以前の教育課程読み替え科目：数学Ⅰ				

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>(1) 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。</p> <p>(2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付ける。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付ける。</p>
使用教科書 副教材等	改訂版 新 高校の数学Ⅰ（数研出版） 改訂版 新高校の数学Ⅰ対応 ポイントノート数学Ⅰ（数研出版）

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとしている。
評価点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1章 数と式 第2章 二次関数	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	第3章 図形と計量 第4章 集合と命題 第5章 データの分析	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点

4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	前期2回以上、後期2回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	スクーリング回数に含めることができない。
レポート	前1回～前6回、後1回～後6回のすべてに合格すること。	
試験	前期1回、後期1回、それぞれに合格すること。	

「メディア利用（NHK 高校講座）」は学習を深めるために活用してください。NHK 高校講座の番組名は⑥、⑦ページにあります。
放送視聴ではありませんのでスクーリングの出席とは関係ありません。

5 学習の記録		添削担当者				先生				登録
スクーリング回数	学習内容	レポート				スクーリング実施日				メディア利用(NHK 高校講座)
		回	提出日・合格			日S	月S	火S	木S	
前期	①	数と式の計算①	前1	1	2	4/19	4/20	4/21	4/23	第1/ 2回
	3			4						
	②	数と式の計算②	前2	1	2	5/10	5/11	5/12	5/14	第3/4/ 5/6回
	3			4						
	③	一次不等式	前3	1	2	5/24	5/25	5/26	5/28	第9/ 10回
	3			4						
	④	二次関数①	前4	1	2	6/7	6/8	6/9	6/11	第11/ 12回
	3			4						
⑤	この回は、実施されません。									
⑥	二次関数②	前5	1	2	7/5	7/6	7/7	7/9	第13回	
3			4							
⑦	二次関数③	前6	1	2	7/19	7/13	7/21	7/23	第14/ 16回	
3			4							
⑧	この回は、実施されません。									
試験	レポート前1～前6の内容		本試験	追再試	8/23	8/24	8/25	8/27		
後期	⑨	図形と計量①	後1	1	2	10/11	10/19	10/13	10/15	第22/ 23回
	3			4						
	⑩	図形と計量②	後2	1	2	10/25	10/26	10/27	10/29	第24回
	3			4						
	⑪	この回は、実施されません。								
	⑫	図形と計量③	後3	1	2	11/22	11/16	11/24	11/26	第25/26 /27回
	3			4						
	⑬	集合と命題	後4	1	2	12/6	12/7	12/8	12/10	第39/ 40回
3	4									
⑭	データの分析①	後5	1	2	12/20	12/21	12/22	12/24	第34回	
3			4							
⑮	データの分析②	後6	1	2	1/10	1/18	1/12	1/14	第35回	
3			4							
⑯	この回は、実施されません。									
試験	レポート後1～後6の内容		本試験	追再試	2/7	2/8	2/9	2/4		

6 先生からのメッセージ

数学を学習することで、単に知識や技能の獲得だけではなく、筋道を立てて物事を考える力を養うことができます。高等学校の数学でその基礎となる科目が「数学Ⅰ」です。スクーリングで学習した内容を、レポートやポイントノート数学Ⅰを利用して毎日復習することで、数学的な技能を確実に身に付けていきましょう。

教科・科目	数学・数学Ⅱ	単位数	4（前期2＋後期2）		
		ライン	2	開講期	前期と後期
備考					

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>(1) いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。</p> <p>(2) 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付ける。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付ける。</p>
使用教科書	新編 数学Ⅱ（数研出版）
副教材等	新課程 教科書傍用 3 TRIAL 数学Ⅱ（数研出版）

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとしている。
評価点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1章 式と証明 第2章 複素数と方程式 第3章 図形と方程式	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	第4章 三角関数 第5章 指数関数と対数関数 第6章 微分法と積分法	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点

4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	前期2回以上、後期2回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	スクーリング回数に含めることができない。
レポート	前1回～前6回、後1回～後6回のすべてに合格すること。	
試験	前期1回、後期1回、それぞれに合格すること。	

5 学習の記録		添削担当者				先生				登録	
スクーリング回数	学習内容	レポート				スクーリング実施日				メディア利用(NHK 高校講座)	
		回	提出日・合格			日S	月S	火S	木S		
前期	①	式と証明	前1	1 3	2 4	4/19	—	4/21	4/23	第2/ 3回	
	②	複素数と二次方程式の解	前2	1 3	2 4	5/10	—	5/12	5/14	第4/ 5回	
	③	高次方程式	前3	1 3	2 4	5/24	—	5/26	5/28	第6/ 7回	
	④	点と直線	前4	1 3	2 4	6/7	—	6/9	6/11	第10/ 11回	
	⑤	この回は、実施されません。									
	⑥	円	前5	1 3	2 4	7/5	—	7/7	7/9	第13/ 14回	
	⑦	軌跡と領域	前6	1 3	2 4	7/19	—	7/21	7/23	第15/ 16回	
	⑧	この回は、実施されません。									
試験	レポート前1～前6の内容		本試験	追再試	8/23	—	8/25	8/27			
後期	⑨	三角関数	後1	1 3	2 4	10/11	—	10/13	10/15	第17/ 18回	
	⑩	指数関数	後2	1 3	2 4	10/25	—	10/27	10/29	第25/ 26回	
	⑪	この回は、実施されません。									
	⑫	対数関数	後3	1 3	2 4	11/22	—	11/24	11/26	第28/ 29回	
	⑬	微分係数と導関数	後4	1 3	2 4	12/6	—	12/8	12/10	第32/ 33回	
	⑭	関数の値の変化	後5	1 3	2 4	12/20	—	12/22	12/24	第35/ 36回	
	⑮	積分法	後6	1 3	2 4	1/10	—	1/12	1/14	第38/ 39回	
	⑯	この回は、実施されません。									
試験	レポート後1～後6の内容		本試験	追再試	2/7	—	2/9	2/4			

6 先生からのメッセージ

数学を学習することで、単に知識や技能の獲得だけではなく、筋道を立てて物事を考える力を養うことができます。「数学Ⅱ」は「数学Ⅰ」で学んだことを用いて、さらに数学を深く学びます。スクーリングで学習した内容を、レポートや3 TRIAL を利用して毎日復習することで、数学的な技能を確実に身に付けていきましょう。また、必要に応じた ICT の活用によって主体的な学習をサポートしていきます。

教科・科目	数学・数学 A	単位数	2（前期 1 + 後期 1）		
		ライン	3	開講期	前期と後期
備考					

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>(1) 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。</p> <p>(2) 図形の構成要素間関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身に付ける。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付ける。</p>
使用教科書 副教材等	改訂版 新編 数学 A（数研出版） 改訂版 教科書傍用 3 TRIAL 数学 A（数研出版）

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	図形の構成要素間関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとしている。
評価点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第 1 章 場合の数と確率	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	第 2 章 図形の性質 第 3 章 数学と人間の活動	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点

4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	前期 2 回以上、後期 2 回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	スクーリング回数に含めることができない。
レポート	前 1 回～前 6 回、後 1 回～後 6 回のすべてに合格すること。	
試験	前期 1 回、後期 1 回、それぞれに合格すること。	

5 学習の記録		添削担当者				先生				登録	
スクーリング回数	学習内容	レポート				スクーリング実施日				メディア利用(NHK 高校講座)	
		回	提出日・合格			日S	月S	火S	木S		
前期	①	前1	1		2	4/19	—	4/21	4/16	第2回	
	3			4							
	②	前2	1		2	5/10	—	5/12	5/7	第3/ 4回	
			3		4						
	③	前3	1		2	5/24	—	5/26	5/21	第5/6 /7回	
			3		4						
	④	前4	1		2	6/7	—	6/9	6/4	第8/ 9回	
			3		4						
⑤	この回は、実施されません。										
⑥	確率①	前5	1		2	7/5	—	7/7	7/2	第10回	
			3		4						
⑦	確率②	前6	1		2	7/19	—	7/21	7/16	第11/12 /13/14回	
			3		4						
⑧	この回は、実施されません。										
試験	レポート前1～前6の内容		本試験		追再試		8/23	—	8/25	8/27	
後期	⑨	後1	1		2	10/11	—	10/13	10/8	第21/22 /23/24回	
			3		4						
	⑩	後2	1		2	10/25	—	10/27	10/22	第25/26 /27回	
			3		4						
	⑪	この回は、実施されません。									
	⑫	平面図形③・空間図形	後3	1		2	11/22	—	11/24	11/19	第28/29 /31回
				3		4					
	⑬	整数の性質①	後4	1		2	12/6	—	12/8	12/3	第34回
3					4						
⑭	整数の性質②	後5	1		2	12/20	—	12/22	12/17	第35回	
			3		4						
⑮	数学と人間の活動	後6	1		2	1/10	—	1/12	1/7	第36回	
			3		4						
⑯	この回は、実施されません。										
試験	レポート後1～後6の内容		本試験		追再試		2/7	—	2/9	2/4	

6 先生からのメッセージ

「場合の数と確率」では、場合の数をもれなく重複なく数え上げ、樹形図や表に整理することを通して、順列・組合せの求め方を学びます。また、確率の基本法則を学び、不確実な事象の起こりやすさを判断する力を培います。「図形の性質」では、三角形や円の性質、空間図形について学びます。「数学と人間の活動」では、約数と倍数などの整数の性質を学び、数学を文化との関連から捉えます。学習内容を復習し、数学的に考える資質・能力を身に付けましょう。

教科・科目	数学・数学 B	単位数	2（前期 1 + 後期 1）		
		ライン	4	開講期	前期と後期
備考					

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>(1) 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。</p> <p>(2) 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身に付ける。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付ける。</p>
使用教科書 副教材等	<p>新編 数学 B（数研出版）</p> <p>新課程教科書傍用 3 TRIAL 数学 B（数研出版）</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとしている。
評価点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第 1 章 数列	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	第 2 章 統計的な推測 第 3 章 数学と社会生活	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点

4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	前期 2 回以上、後期 2 回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	スクーリング回数に含めることができない。
レポート	前 1 回～前 6 回、後 1 回～後 6 回のすべてに合格すること。	
試験	前期 1 回、後期 1 回、それぞれに合格すること。	

5 学習の記録		添削担当者				先生				登録	
スクーリング回数	学習内容	レポート				スクーリング実施日				メディア利用(NHK高校講座)	
		回	提出日・合格			日S	月S	火S	木S		
前期	① 等差数列と等比数列①	前1	1		2	4/19	—	4/21	4/16		
	3			4							
	② 等差数列と等比数列②	前2	1		2	5/10	—	5/12	5/7		
	3			4							
	③ 等差数列と等比数列③	前3	1		2	5/24	—	5/26	5/21		
	3			4							
	④ いろいろな数列①	前4	1		2	6/7	—	6/9	6/4		
	3			4							
⑤	この回は、実施されません。										
⑥ いろいろな数列②	前5	1		2	7/5	—	7/7	7/2			
3			4								
⑦ 漸化式と数学的帰納法	前6	1		2	7/19	—	7/21	7/16			
3			4								
⑧	この回は、実施されません。										
試験	レポート前1～前6の内容		本試験		追再試		8/23	—	8/25	8/27	
後期	⑨ 確率分布①	後1	1		2	10/11	—	10/13	10/8		
	3			4							
	⑩ 確率分布②	後2	1		2	10/25	—	10/27	10/22		
	3			4							
	⑪	この回は、実施されません。									
	⑫ 確率分布③	後3	1		2	11/22	—	11/24	11/19		
	3			4							
	⑬ 確率分布④	後4	1		2	12/6	—	12/8	12/3		
3			4								
⑭ 統計的な推測①	後5	1		2	12/20	—	12/22	12/17			
3			4								
⑮ 統計的な推測② 数学と社会生活	後6	1		2	1/10	—	1/12	1/7			
3			4								
⑯	この回は、実施されません。										
試験	レポート後1～後6の内容		本試験		追再試		2/7	—	2/9	2/4	

6 先生からのメッセージ

「数列」では様々な規則性をもつ数の並びから一般項や数列の和について調べていきます。「統計的な推測」では確率を求める問題から始まり、母集団の性質を推測する方法までを学びます。日々のスクーリングを大切に、分からないところはそのままにしないようにしましょう。教科別質問教室や Classroom の活用を積極的に！